

平成30年度 新潟市立図書館施策・事業評価シート

シートNo.1

◇全館共通項目は、中央図書館を含めた中心館が共通の意識を持って取り組んだ事業。  
◆館の重点評価項目は、中央図書館が重点的に取り組んだ事業。

中心図書館名：中央図書館のみ

区分	施策・事業名	概要	実施結果	評価		
				自己評価	外部評価	
課題解決型図書館	◇全館共通評価項目  課題解決のためのレファレンスサービスの充実	・市民に身近な課題解決のためレファレンス(調査・相談)サービスを充実させ、迅速かつ的確な情報提供を行う。	・市役所の庁内掲示板で、市職員に向けてのレファレンスサービスの呼びかけや自治体情報誌の目次情報の提供を行った。	・機会を捉えてレファレンスサービスのPRを行い、情報提供に努めた。	3 大変評価する。 17% 2 ある程度評価する。 66% 1 評価できない。 17%	・身近な課題解決のためのレファレンスサービスは必要ではあるが、どんな課題が予想され、どの程度対応ができるのか。専門的な職員が必要になり、それに十分応え切れるのか難しいと思う。 ・職員向けレファレンスであるなら評価対象不可と考える為。 ・市職員に向け定期的に呼びかけを行いある程度良かったと思う。 ・市民が必要としているサービスなのでこのままでいいと思います。 ・レファレンスサービスの充実に向け努力されていた。さらに幅広くPRを行ってもらいたい。 ・掲示板での呼びかけだけでは不十分だと思うので、さらに工夫ができないか(課や職員へメールを配信するとか)。 ・評価するが、サービスの提供はさらに考えていく必要がある。市職員から資料や情報請求がなければ、具体的なレファレンスサービス例を作成して「こんなことも図書館に聞いてみるとよいのか」と思わせる掲示物を作成すると、市役所に訪れた人も目にしてさらに拡大拡充につながるのではないかと。 ・直接市民と接する機会の多い職員へサービスを浸透させることは有意義と考える。
	◆館の重点評価項目  職員のレファレンス能力の向上	・職員のレファレンス能力の向上のため、レファレンス研修を実施する。	・職員研修として既存のパスファインダーの修正を行った。また、利用者の調査相談のニーズを把握し、新規のパスファインダー作成を行った。	・利用者の課題解決の手助けとなるよう、よく聞かれるテーマについてのパスファインダーを新たに作成した。	3 大変評価する。 33% 2 ある程度評価する。 67% 1 評価できない。 0%	・こういう図書館の役割はどの程度応えるべきか哲学が必要になる。なぜなら、利用者の数は限られてくると思われるので。 ・普通である。 ・新規のパスファインダーの作成は良かったと思う。実践に即した研修は重要であり定期的に行ってほしい。 ・上記同様大事なことだと思います。 ・利用者の調査相談のニーズ把握に努め、作成されたパスファインダーが、利用者の問題解決に繋がるよう期待したい。 ・パスファインダーが作成されるようになった時期から、ある程度の時間がたっており、情報探索のツールもコンテンツもかなり変わってきているが、パスファインダーが古いまま更新されないという事例を(他の公共図書館などで)よく見てきた。利用者の課題解決の手法も変わりつつある。パスファインダーも対応できるように、更新してほしい。 ・利用者が本を探す際に分かりやすくなっていると思う。 ・パスファインダーの内容更新は必要と考える。大変有効。
特色ある地域づくり図書館に寄与する	◇全館共通評価項目  地域資料の体系的な収集と活用	・各区を代表する人物・自然風土・産業等の地域コレクションの形成と展示を行う。	・以下の特別コレクション室展示を行った。 「會津八一の書簡展」H30.3.8～H30.6.26 「めぐる・つながる・坂口安吾」 H30.7.5～H30.10.2 「「つなぐ町・流作場あるき」で知るBOOK展」 H30.10.4～H30.12.4 「入門 中田みづほ」H30.12.6～H31.3.5 「戊辰戦争と新潟」H31.3.7～R1.9.3 ・地域連携事業講演会「新発田藩の決断―追撃 沼垂を焼くな!」を開催した。	・地域連携事業講演会の開催に合わせた展示を特別コレクション室で行い、両方の事業の集客につなげた。 ・「「つなぐ町・流作場あるき」で知るBOOK展」では、展示資料を活用してもらい、大学や地域の団体がまち歩きをするなどの連携を図った。	3 大変評価する。 58% 2 ある程度評価する。 34% 1 評価できない。 8%	・こうした講演会、展示会の事前の目標数と実際の利用者数をオープンにし、図書館の活動運営の評価をきちんと分析することが大切である。いずれにしても、市民が必要とし、参加してよかったと思える催しを作り出していくことが大切。 ・地域・分野共に地方色が有り、興味深い内容。 ・地域に密着した流作場あるきは、つながりを深める重要な手段だと思います。公民館ともっと連携し良い企画を望みます。 ・地域と図書館が繋がるような活動で市民の参加が多いのは、とても良い事だと思います。色々な趣向を凝らしているようであり、来年度も楽しみます。 ・地域資料をいかした魅力ある事業を展開された。講演会に合わせての展示など工夫を凝らし集客につなげたことや、展示資料を活用してもらい、まち歩きでの学習力アップにつなげたことを評価する。 ・コレクション室を有効活用し、常に郷土資料を展示することで、利用者の興味を喚起している。不断に続けてほしい。 ・コレクション展を行った割には、貸出数や来場者数に反映されていない。 ・糸賀先生の講演にもあったように、公共図書館が地域の情報発信の場として、観光的な役割を担う可能性が出てきました。地域資料が、特別展示のような形で提示されたり、講演会が行われたりしたのは、よかったと思います。 ・特別コレクション室展示の担当が実際にどうであったかは分からないが、各館がその地域ならではの展示などに力を入れることはよいことだと思う。同じようなことをやっていては大きな館に負けてしまうので、蔵書や展示にオリジナリティを出すようにしてもらいたい。 ・大学や地域の団体との連携は、地域の歴史や文化の調査を継続していけるもので大いに評価したい。 ・地域・市民をつなぐ手段として継続開催を期待する。
	◆館の重点評価項目  地域の声を反映した図書館運営	・図書館協議会合同情報交換会を開催し、図書館の事業についての理解と関心を深めていただくとともに、話し合われた内容を図書館の運営に活かす。	・平成30年度の合同情報交換会では、慶應義塾大学名誉教授の糸賀雅児先生を講師に迎えて「図書館行政の最新動向～図書館は教育委員会所管でなくなるのか?～」と題した講演会を開催し、文部科学省の方針や、社会の変化に対応する図書館の役割について理解を深めた。7つの協議会から35名の委員の参加があり、活発な質疑応答も行われた。	・講演会のアンケート結果によると、図書館行政の最新動向や図書館協議会の果たす役割について知ることができたと、おおむね好評だった。また、協議会委員同士で共有・意見交換をすることができた。	3 大変評価する。 50% 2 ある程度評価する。 50% 1 評価できない。 0%	・具体的な図書館の活性化の実践を全国の成果を上げている図書館から学ぶ必要があると思う。そして新潟市でも運営に生かしてほしい。何しろ、早急に大きな成果を上げ、図書館行政を具体的に変革して欲しい。 ・参加し、大変勉強になった。 ・今後も年1回合同情報交換会を開催し外部講師の講演会も行ってほしい。 ・図書館協議会委員としてとても勉強になりました。参加して良かったです。 ・講演会内容を拝聴し行政の同行がよく分かり、図書館協議会の果たす役割の重責を知ることができた。 ・今後の図書館教育の在り方を研究・研修し大いに評価する。 ・外部講師の講演は協議会委員・職員研修とも有効。継続を期待する。

区分	施策・事業名	概要	実施結果	評価		
				自己評価	外部評価	
子ども・社・民融合活動を推進する	◇全館共通評価項目 子どもの読書環境の整備	・ブックスタート事業を継続する。 ・赤ちゃんタイムの利用を促進する。 ・うちどく(家読)を推進する。	・中央図書館では、2区5会場でブックスタートを70回実施し、2,328名に絵本を手渡した。また、中央図書館で実施したブックスタートで13組に絵本を手渡した。全市での実施率は95.1%となった。 ・うちどく(家読)関連事業として、3期目の「子ども司書講座」を開催し、10名の参加があった。1・2期の「子ども司書講座」受講者を対象とした「本のPOP製作」も開催し、7名の参加があった。その他、新たに「うちどくブックリスト(高校生向け)」を作成した。	・ブックスタートは、ブックスタート実行委員会や関係者会議などを開催し、ボランティアや関係課・機関と連携して円滑に実行した。 ・「子ども司書講座」では、3期受講生と1・2期受講生が共に活動する時間を設け、子ども司書たちの交流を深めることができた。 ・「うちどくブックリスト(高校生向け)」は、普段読書をあまりしない高校生にもわかりやすいリストにするため、本の選定やレイアウトに配慮して作成し、高校生世代の読書推進に努めた。	3 大変評価する。 58% 2 ある程度評価する。 42% 1 評価できない。 0%	・ブックスタートの成果とは何か、そこをどう考えてやっているのかを鮮明に、そしてそれに対してどんな成果が得られたのか、何が問題だったのか明らかにする。だって、本をもらった人が喜ぶのは当たり前だから。 ・継続と促進にプラス推進を。 ・スマホ中心の高校生を読書に関心を持たせる取組みとして「うちどく」の進展に期待しています。重点的にPRし広く浸透することを願っています。 ・ブックスタートが順調で大変良いと思います。会場で女性の市議員が来られ視察して行かれた時もあり、廃止しないで永久に行ってほしいと思います。 ・うちどくの関連事業は参加が多く、ブックリストの作成など子どもの読書環境をよくしようとする図書館を評価いたします。市の財政も厳しい所と思いますが、出来る限りブックスタートの実施を続けていただきたいと思っています。 ・年々パワーアップした事業を展開されていた。ブックスタート事業は市民参画型で連携を充実させる努力をされた。 ・「子ども司書講座」の取組はよいと思う。もっと発信できるとよい。 ・ブックスタート事業が全市で確実に定着してきたことに価値がある。 ・評価するが、現状を考えると様々なところで読書の推進を行っていかなくてはならないと考える。 ・ブックスタートが継続して行われていることは、とても素晴らしいことである。と同時にボランティア研修は必要であると思うので行なってほしい。高校生などアプローチが難しい点も多いと思いますが継続を期待する。
	◆館の重点評価項目 ・学校、保育園、幼稚園、公民館などとの連携と支援	・市内4つの学校図書館支援センターが、学校・関係機関と連携し、学校図書館活用を推進する。 ・「地域と学校パートナーシップ研修会」に参加し、関係機関との情報共有を図る。	・4つの学校図書館支援センター全体の取組 ①学校図書館訪問(298回)、業務相談(1,132件)、新任学校司書研修(6回、延べ112名参加)、学校司書実務研修(6回、延べ327名参加)、学校ボランティア支援(4校、5回)を実施した。 ②総合教育センター研修「教員と司書との連携充実」に参画し、学校支援課「学校図書館活用推進校事業」に協力した。 ③学校や関係課による「特別支援学校の学校図書館整備連絡会」を開催した。 ・地域と学校パートナーシップ研修に全館で延べ21名が参加した。	・学校・関係機関と連携・協力し、学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」機能の充実や、学校全体での図書館運営・活用を教育委員会全体で共有できた。 ・東・西特別支援学校に対し、引き続き学校のニーズに応じた支援を行った。	3 大変評価する。 50% 2 ある程度評価する。 42% 1 評価できない。 8%	・学校図書館支援センターはもっと授業と直結した授業改革に具体的に迫る必要があると思います。よい実践記録をいくつも集めて公開してほしいと思います。そして図書館を生かした授業のイメージを鮮明化してほしいです。そうしない限り改善にはつながらないと思います。 ・職員の仕事として普通では？ ・新潟市の特色である司書の全校配置を生かすために司書の研修の充実を望む。 ・子どもと本の関係を作るのに学校や関係機関との連携は不可欠だと思います。内容も重要で良いと思いました。 ・取り組まれた実績回数・件数も大変多く努力されたことがわかる。これからは回数については少し検討されて、内容の充実をさらにすすめていくことも必要なのではないだろうか。 ・学校図書館訪問や業務相談等は、非常に成果が上がっている。貸し出し数など市立図書館の直接的な実績には結びつきにくいかもしれないが、公的機関として十分評価されるべきものと考えている。 ・学校図書館を支援していただき大変助かっている。学校図書では限界があり、学校図書館のセンター機能を遺憾なく発揮している。 ・児童・生徒が自分の足で訪れ、自分の手で本を選ぶ一番身近な場所が学校図書館と考える。学校司書の先生からは、本の楽しさ、選び方、読み方など、たくさんの情報が受け取れる場所であってほしい。
市民参画と協働を推進する	◇全館共通評価項目 ボランティアや教育機関・民間団体等との協働	・ボランティア・教育機関や民間団体等と一緒に事業を行い、市民との協働を推進する。	・中央図書館友の会と共催で、中央図書館友の会講演会「開港150周年記念 新潟湊町を支えた花街一食と芸一」を開催した。(参加者92名) ・市民団体(新潟ビブリオバトル部)との共催で、「ほんぼーとビブリオバトル」を開催した。(参加者30名) ・コズミックカレッジ新潟会場実行委員会との共催で、「コズミックカレッジ新潟会場2018」を開催した。(参加者親子17組) ・北新越こどものとも社との共催で、「新潟絵本講座2018」を開催した。(参加者134名)	・図書館の利用者拡大に繋がるよう、全館で様々なボランティアグループや民間団体等と協働して事業を実施した。	3 大変評価する。 58% 2 ある程度評価する。 42% 1 評価できない。 0%	・身近な図書館を感じられる。 ・ボランティアデビュー講座の復活を望みます。ボランティアは多くいても少ないよりは良いと思います。ビブリオバトルの年間企画を考え、常態化する。 ・市民が図書館ならではのイベントに楽しく参加できているのがいいと思いました。更に他のグループとの協働がよりよいものになっているのだと思います。ビブリオバトルについては、固定したものにならないようにと工夫が求められているようですが、少しずつ改善策を立てていけばよいのではと思っています。 ・これからも協働での事業実施により、市民との連携を深めていくことで、利用者の図書館意識拡大に期待したい。 ・図書館の拡大につながる取り組みをしている。 ・市民が参加しやすい事業の開催を今後も期待する。
	◆館の重点評価項目 ボランティアや教育機関・民間団体等との協働	・市民と協働した活動が進められるよう、支援や情報提供を行う。	・ボランティア養成のため「平成30年度新潟市立中央図書館ボランティアデビュー講座」を開催した。(参加者13名) ・読み聞かせボランティア養成講座を実施した。(参加者18名) ・読み聞かせ等ボランティアグループ情報交換会を実施した。(参加者26名)	・読み聞かせボランティア講座を実施し、新たな読み聞かせボランティアを養成した。 ・読み聞かせ等ボランティアグループの情報交換会を実施し、グループ間の交流や情報交換への支援ができた。	3 大変評価する。 33% 2 ある程度評価する。 67% 1 評価できない。 0%	・この先開館15周年事業に向けてボランティアと何ができるか検討の余地があると思います。 ・意義があることだと思います。このまま続けていただけたらありがたいと思います。 ・読み聞かせに関心がある方の生涯学習支援として講座を開催していることを評価する。情報交換によってボランティアの活動意識の変化を知りたい。 ・新たな「読み聞かせボランティアの養成」など取り組みを頑張っている。 ・事業継続のため、ボランティアの育成は必要だと考える。ボランティア同士の活動への情報交換の場の提供は必須。活動の質の向上につながる。